

泥まみれのリアルから学ぶ、真のBCP

株式会社ヤスナガ 安永社長が語る、九州北部豪雨・被災の経験談

NotebookLM

九州北部豪雨による河川の決壊箇所





沖端川決壊。当社までわずか250メートル。

1 平成24年7月14日 午前8時50分：
沖端川の堤防が決壊。

2 距離の恐怖
工場からわずか250m北の地点。

3 一瞬の出来事
流木やゴミを含んだ濁流が、一気に工場・事務所へ流入。

4 奇跡的な人的被害ゼロ
早朝の役員会議で「自宅待機」を即時決定。これが社員の命を救った最初の決断。

運命を分けた「30分前」の決断

06:30 緊急役員会議・自宅待機決定

07:00 各課への連絡開始（携帯電話によるリレー形式）

07:30過ぎ 臨時休業へ切り替え・全社員への連絡完了

08:50 【発災】沖端川堤防決壊

決壊のわずか**30〜40分前**の連絡完了。ギリギリの決断だった。

NotebookLM

回避された「最悪のシナリオ」

IF — もし通常出社させていたら



「決壊の時間からいって、通勤中の社員の車は全部濁流にのまれていた。」

人命に関わる最悪の事態と、
復旧の足となる全車両の喪失リスク。

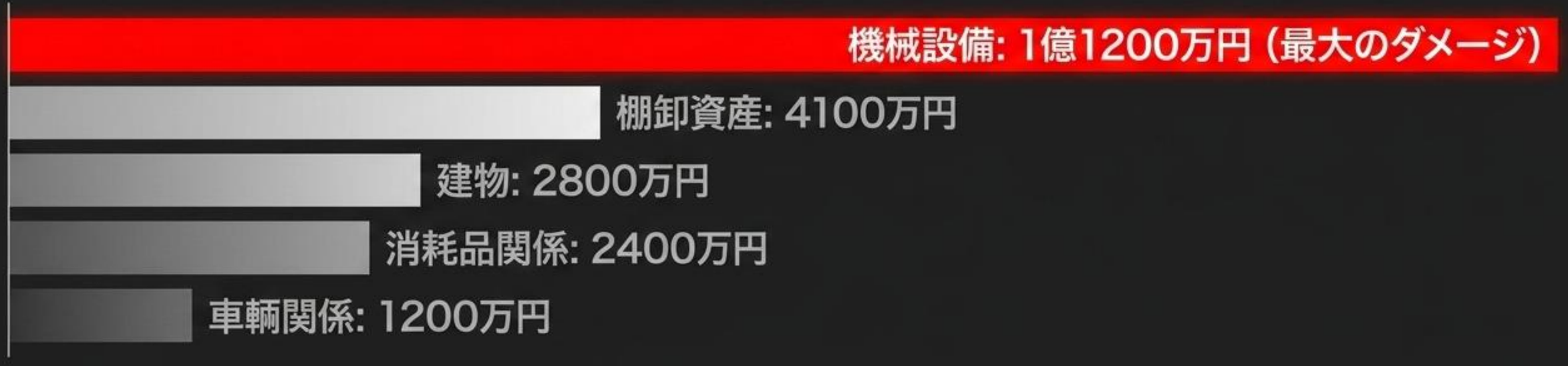
Reality — 出勤停止の判断

全社員**53名**の無事を確認。

「彼らの**足（車）と命を守ること**ができたのは、本当に**不幸中の幸いでした。**」（社長の証言より）

NotebookLM

被害総額：推定2億1700万円



NotebookLM

泥に沈んだ工場の心臓部（精密機械群）



レーザー加工機：
浸水跡 50cm。交換用レンズ等
消耗品も全て浸水、使用不可。



プレスブレーキ：
壁面と機械に60cmの浸水跡。
ピット内には泥水が残留。



シャーリング機：
ピット内に70cm程度の泥水。
材料の7〜8割が使用不可に。

ほぼすべての主要機械（レーザー、複合機、溶接機、シャーリング等）が浸水し、稼働不能に陥った。

NotebookLM

復旧の絶対条件：「泥の掻き出し」という最大の壁



BCPの完全な盲点：
「清掃」は単なる後片付けではなく、すべての復旧作業（業者の修理等）の大前提。

過酷な現実：
悪臭と猛暑の中、ズッボッと足がはまる汚泥。 体力の配分も分からず、何度も倒れそうになる社員たち。

不可欠なインフラ：
水道が使えない中での汚泥洗浄、そして膨大なゴミの分別指示。 泥を制さなければ、前へは進めない。

NotebookLM

マインドセットの転換 — 動き出すための「4つの基本方針」

01ペース配分と安全確保

無休・18時終業・交代制。
持続可能な復旧体制を構築

02清掃（泥の掻き出し）の絶対的優先

業者の修理作業を妨げない環境作り。

03感謝の徹底

ボランティアや修理業者へ深く感謝し、共に作業に取り組む。

04顧客への誠実な対応

受注品をリストアップし、協力企業の応援（田名部製作所、シンエイメタルテック、ユーアイ技研、三松、三和金属）によって迷惑を最小限に抑える

Mudline

NotebookLM

命運を分けた「被災1ヶ月前」の決断：水害保険

80%完成のBCP

- 取引先の要望でBCP策定に着手。
- 想定災害を「矢部川の氾濫による2m浸水」に設定。
- 気づき：策定過程で「水害特約」が付加されていないことが判明。

1ヶ月前の契約変更

- 被災わずか1ヶ月前に水害保険の契約を変更し加入。
- 結果：この保険が、社員一丸となった復旧作業の「精神的・資金的な力強い後ろ盾」に。
- 教訓：「自社に合った保険加入をすべき。保険料が勿体ないは考え違い。」

NotebookLM

見えない二次被害 — 水害が生んだ「もう一つの危機」

物理的セキュリティの崩壊

脅威:



警備システムのダウン。
夜間に不審車両の侵入や、見知らぬ回収業者による持ち去り未遂が発生。

対策:



金品・重要物の自宅持ち帰り管理。
復旧までの厳重な物理警備の必要性。

心理的セキュリティの崩壊

脅威:



「被害額４～6億円、会社存続の危機」というデマが拡散。
社員のモチベーション低下の要因に。

対策:



スピード感のある賞与の支払い。
具体的なアクションでデマを一蹴し、企業の健全性を内外に証明。

NotebookLM

BCPの死角：机上の空論 vs 現場のリアル

	想定（Theory）	現実（Reality）
連絡手段	精緻な緊急連絡網・メールリスト。	PC・サーバーダウンによりメール不可。機能しなかった。
データ管理	クラウドや高度なシステムバックアップ。	被災前日に偶然取っていた「USBメモリ」と、物理的に2階へ避難させたサーバーが会社を救った。
資金運用	銀行口座と金庫による通常運用。	耐火金庫が水没。経理担当者が「現金・小切手・社印」をリュックサックで背負って現場を走り回る事態に。
復旧アイテム	事務用品やヘルメット。	最優先は「高圧洗浄機」「長靴」、そして熱中症対策の「1人1日5~6本の飲料水」。

NotebookLM

復旧への軌跡：「1週間で復旧するぞ！」





被災翌日 (Day 1)

安永社長が「1週間で復旧するぞ！」と全社員へ宣言。目標の明確化。

最初の2週間 (Weeks 1-2)

保険会社との折衝、ボランティアとの協働による泥出し完了。通常の8割程度まで業務再開。

8月初旬 (Week 3)

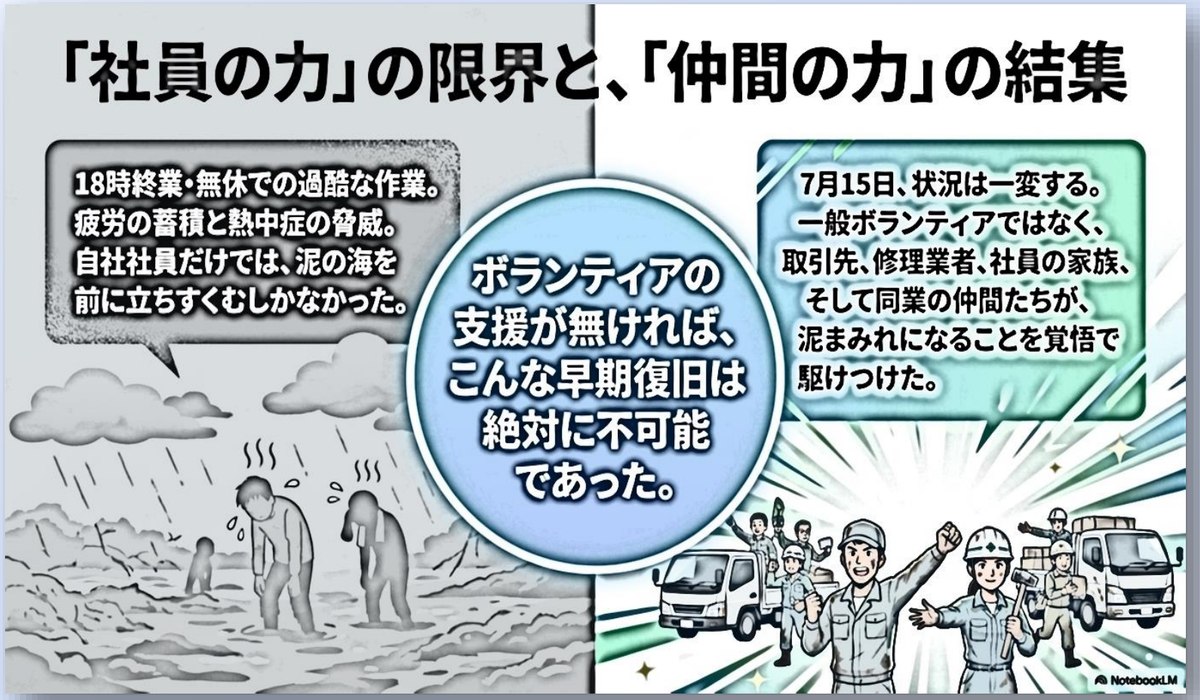
ほぼ通常業務の状態へ完全復帰。

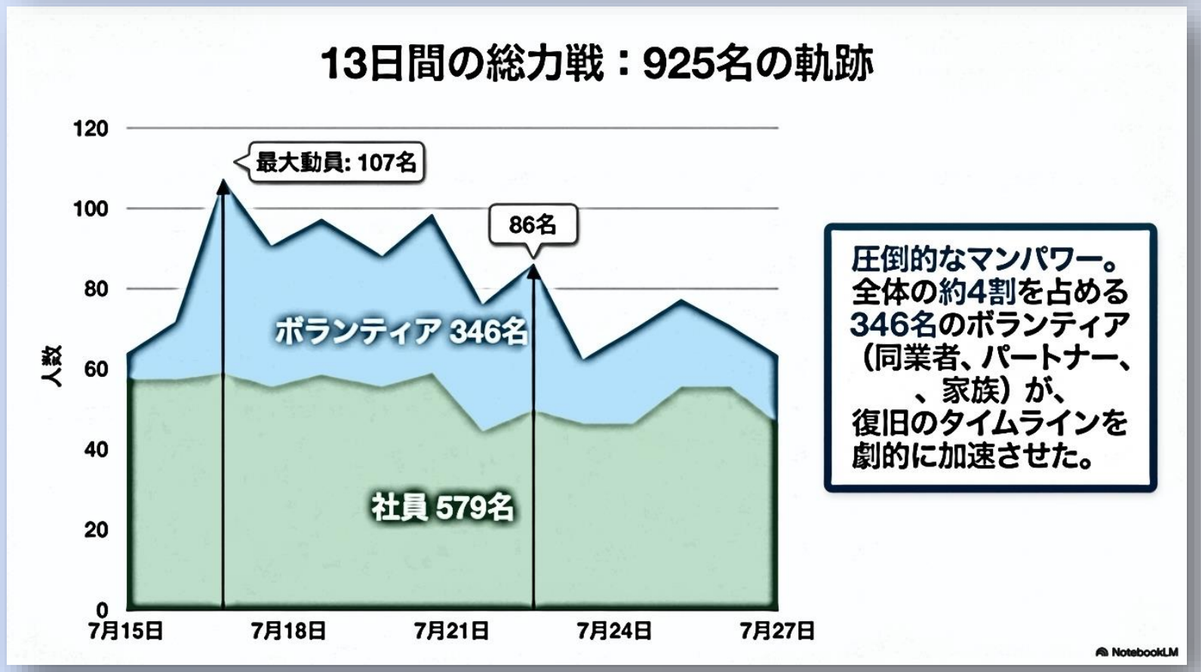
勝因：迷いのないトップの決断、水害保険という資金盾、そして全員の「何とかしなきゃ！」という意志。

NotebookLM

泥濘（ぬかるみ）から奇跡へ
早期復旧に導いた『ボランティアの力』

絶望的な泥の海の中で、
皆様が流してくださった汗と、差し伸べてくれた手。
自らの仕事もある中、遠方より駆けつけ、
泥まみれになりながら道具や知恵、
そして重機までも提供していただきました。
『早期復旧』。それは、
決して自社の力だけで成し遂げたものではありません。
炎天下のぬかるみの中で、
皆様と共に戦ったあの時間がなければ、
今日の株式会社ヤスナガは存在しません。
また、ボランティアとして手伝ってくれた
九州シートメタル工業会の皆様は単なる同業者では
なく、私たちの会社を救ってくれた恩人であり、
かけがえのない「戦友」です。
心より感謝申し上げます。





絶望の淵で生まれた結束：最前線の声



劉 翰文さん (入社2年目 / 中国出身）：
「皆が声を掛け合い、励まし合いながら作業にあたる姿に本当に感動しました。最初はヤスナガで続けられるか不安もありましたが、今では『この会社で、これから先もずっと頑張りたい』と自信を持って思えます。」





原田 義光さん（入社8年目 / 溶接担当）：
「工場を見た時、復旧に1～2ヶ月はかかると思いました。仕事がなくなる不安で一杯でしたが、普段話さない若い社員や違う部署の人とも一致団結できた。皆の総力が結集した、驚異的な早さでした。」

NotebookLM

真の危機管理とは：安永社長からのメッセージ

「緊急時に『ああでもない、こうでもない』と
方法論を議論していては、復旧は不可能です。」



**「もっとも大事なのは、方法論ではなく、
『何とかしなくてはいけない』と
いう気持ちを持ち続けることです。」**

「平常時にできないことは、緊急時にも絶対にできません。
いざとなればできる、は幻想です。 毎日の積み重ねだけが、
災害時の答えとなって返ってきます。」



本日はご清聴ありがとうございました。私たちの経験、後悔、そして反省が、皆様の真のBCP策定の一助になれば幸いです。